

大綱1 豊かな心を育むまちづくり ～ひとづくり～

No.	施策の方針	施策項目	
1	心を豊かにする生涯学習の推進	(1) 生涯学習の推進	(4) 社会教育施設・体育施設の整備
		(2) 生涯スポーツの推進	(5) 文化施設の整備
		(3) 文化活動への支援	
2	特色ある学校教育の推進	(1) 学力の向上対策	(5) 特別支援教育の充実
		(2) 心の教育	(6) 進路指導の充実
		(3) 学校保健・体育の充実	(7) 小・中学校施設の整備
		(4) 学校給食の充実	(8) 放射線教育の充実
3	安心して子育てができる環境整備の推進	(1) 子育て支援	(3) 幼稚園・保育所・児童館等の整備・運営
		(2) 地域における子育て力の向上	(4) 子育て世代の経済的負担の軽減
4	次世代を担う青少年の健全育成の推進	(1) 青少年の健全育成	(3) 人材の育成
		(2) 青少年団体等の育成	

1 成果指標

指標名	初期調査時 18年度	25年度 実績	26年度 実績	27年度 実績	28年度 目標値	指標の説明
①生涯学習講座の受講者数[単年]	43,285人	48,656人	53,245人	53,837人	54,000人	生涯学習講座を受講した年間の延べ人数
②講師派遣事業支援実施数[単年]	—	40回	42回	55回	60回	勉強会等への講師派遣支援の年間の回数
③スポーツ大会等の参加者数[単年]	—	5,650人	5,638人	5,784人	7,500人	体育協会等が開催するスポーツ大会への年間の参加者数
④企画公演の参加者数[単年]	12,000人	21,505人	22,604人	21,243人	15,000人	喜多方プラザ企画公演への年間の参加者数
⑤市立図書館利用者数[単年]	28,500人	33,267人	31,996人	31,408人	34,700人	図書館利用者及び図書館企画事業参加者の年間の延べ人数
⑥市美術館事業参加者数[単年]	12,500人	31,166人	11,591人	14,267人	16,000人	美術館観覧者及び美術館企画事業参加者の年間の延べ人数
⑦学校コンピュータ整備数[累計]	700台	739台	741台	727台	1,100台	市内全域の小中学校のコンピュータ室、普通教室、特別教室に整備するパソコンの台数
⑧家庭で本を1か月に1冊以上読んだ児童生徒の割合[単年]	小学生 —	98.3%	98.9%	99.2%	100%	家庭での読書活動において、1か月に1冊以上本を読んだ児童生徒の割合
	中学生 —	88.2%	90.9%	86.5%	90%	
⑨児童生徒のむし歯有病者のうち処置完了者率[単年]	—	70.5%	72.0%	70.1%	80%	小学校、中学校における、児童生徒のむし歯有病者のうち処置完了者率
⑩耐震化学校施設の数[累計] (全72施設中、新耐震基準であるS57年以降建設の25施設を除く。)	耐震診断 —	47か所	47か所	47か所	47か所	校舎・体育館等の耐震診断又は耐震化改修工事を実施する学校施設の延べ数
	耐震化改修工事 1か所	30か所	33か所	33か所	35か所	
⑪出生率[単年] (人口千人あたり)	6.48人	7.20人	7.78人	6.68人	7.5人	年間の人口千人あたりの出生数

⑫育児不安が強い 母親の割合[単年]	27.7%	28.1%	32.9%	29.7%	15%	4か月児健診時に実施した子育てアンケートから、育児支援を必要とする母親の割合
⑬虫歯のない3歳児 の割合[単年]	54.2%	73.1%	67.9%	71.5%	80.0%	3歳児健診時に虫歯のない子供の割合
⑭青少年のボランティア活動への参加者数 [単年]	—	72人	172人	142人	180人	青少年の青少年育成、文化活動へのボランティアとして参加する人数

【成果指標からみた実績】

- ①「生涯学習講座の受講者数」は、各公民館における新規講座の実施や受講者募集の強化を図ったことにより増加となった。
- ②「講師派遣事業支援実施数」は、人づくり指針講師派遣事業がH26年度と比較し13件増えたことにより、増加となった。
- ③「スポーツ大会等の参加者数」は、各種大会開催に係る啓発の強化等により、8つの大会のうち4つの大会で参加者数が増え、増加となった。
- ④「企画公演の参加者数」は、企画公演の内容の違いから集客に変動があったこと及び中学校合同芸術鑑賞における生徒数が少なかったことにより、減少となった。【目標値達成】
- ⑤「市立図書館利用者数」は、年間利用者数に大きな変化はなかったが、ブックスタート事業の実施方法の見直しにより、事業対象者(＝図書館利用者)の利用が減ったことにより、減少となった。
- ⑥「市美術館事業参加者数」は、美術館企画展観覧者及び市内小中学校鑑賞授業参加者が増えたことにより、増加となった。
- ⑦「学校コンピュータ整備数」は、児童数の減少に伴うコンピュータ台数の精査見直しにより減少となった。
- ⑧「家庭で本を1か月に1冊以上読んだ児童生徒の割合」は、小学生は学校での読書指導・活動が、家庭での読書習慣に結びつき増加となったが、中学生については読書の冊数は増加しているが、本を読まない生徒に対する読書活動及び指導が結びつかず減少となった。
- ⑨「児童生徒のむし歯有病者のうち処置完了者率」は、小・中学校ともに、むし歯有病者率は減少しているが、小学校における処置完了者が4.57%減ったことにより、減少となった。
- ⑩「耐震化学校施設の数」は、耐震診断及び耐震化改修工事とも計画どおり順調に推移した。【目標値達成】
- ⑪「出生率(人口千人当たり)」は、出生数が327人と前年度より58名少なく、人口が48,967人と488人と減ったことにより減少となった。
- ⑫「育児不安が強い母親の割合」は、上の子への対応に悩んでいる方も多いが、自ら解決できる方も多く、また、健診の場で悩みの対処方法をアドバイスすることで、早期の不安解消につながったことにより減少となった。
- ⑬「虫歯のない3歳児の割合」は、1歳6か月児健診時に、ブラッシング指導に加え、おやつの与え方に着目した保健指導を始めたことにより、良い口腔状態を保つ児が増えたことにより、増加となった。
- ⑭「青少年のボランティア活動への参加者数」は、高校生のボランティア参加人数が減ったことにより減少となった。

2 市民満足度・重要度調査結果

項 目	満足度			重要度		
	19 年度	27 年度	28 年度	19 年度	27 年度	28 年度
(1)生涯学習に参加する機会について (1の①～②)	55.6	58.0	59.3	69.1	76.1	76.5
(2)スポーツ活動に参加する機会について (1の③)	53.0	57.3	58.7	69.7	73.9	75.4
(3)音楽や演劇などに接する機会について (1の④～⑥)	54.7	53.0	52.3	67.3	70.8	73.1
(4)学校教育の充実について (1の⑦～⑩)	51.4	56.0	58.0	79.6	86.2	85.8
(5)乳幼児を育てやすい環境の整備について (1の⑪～⑬)	48.8	50.6	47.9	84.5	89.6	90.7
(6)青少年の健全育成について (1の⑭)	49.8	50.6	51.3	81.1	85.6	86.4
平 均	52.2	54.2	54.6	75.2	80.4	81.3

※19年度、27年度、28年度に実施した市民満足度・重要度アンケート調査による。

【市民満足度・重要度調査結果についての解説】

以下の文章には、次の内容を記載しています。(※項目は、大綱1から大綱5まで合わせて26項目あります。)

- ・満足度・重要度のポイントの増減

前年度及び今年度の調査結果に基づいた各項目のポイントの増減になります。

- ・満足度・重要度の順位

前年度及び今年度の調査結果に基づいた各項目の順位になります。各項目の相対的な位置づけであり、市民の満足の高低、関心の高低がわかります。

- ・満足度で「わからない」を選んだ割合

満足度で「わからない」を選んだ割合が35%を超えた項目について記載しています。市民に内容があまり知られていないものと推測されます。

- ・満足の理由、不満の理由、重要とする理由、重要でないとする理由

今年度の調査で満足・重要などを選択した理由や市民の意見などの主なものを記載しています。

【市民満足度・重要度調査結果】

(1) 生涯学習に参加する機会について

前年度との比較では、満足度は1.3ポイント増加し、重要度についても0.4ポイント増加した。

満足度の順位は26項目中2位となり、重要度の順位は26項目中22位となった。

不満の理由として、

「地区の公民館行事に参加したいと思うが、土日に実施されるものがない。夜、又は土日にも実施してほしい。」といった意見があった。

重要とする理由として、

「生涯学習ということで参加して活動しておりますが、施設にも恵まれ満足しています。人材の育成はこれからの喜多方を考えた時、とても大切なので力を入れて取り組んでいただきたい。」

といった意見があった。

(2) スポーツ活動に参加する機会について

前年度との比較では、満足度は1.4ポイント増加し、重要度も1.5ポイント増加した。

満足度の順位は4位となり、重要度の順位は23位となった。

満足度でわからないを選んだ割合が35.3%と高かった。

満足の理由として、

「スポーツ少年団では、年会費が非常に安く、市の補助で助かっています。」「スポーツに関し

ては大体満足しています。」といった意見があった。

不満の理由として、

「スポーツは個人で参加できる内容があればと思います。(スカッシュ等)」や「体育施設の整備については、テニスコートの不足が挙げられます。」

といった意見があった。

(3) 音楽や演劇などに接する機会について

前年度との比較では、満足度は0.7ポイント減少し、重要度は2.3ポイント増加した。

満足度の順位は17位となり、重要度の順位は24位となった。

不満の理由として、

「プラザの公演について、演劇やコンサートなど話題性のあるもの（他からの集客が予想できるもの）を取り上げてほしい。」「生の演奏劇等をもっと取り入れてほしい。」「プラザの公演に年2回は知名度のある芸能を観たいと思う。」

といった意見も見られた。

(4) 学校教育の充実について

前年度との比較では、満足度は2.0ポイント増加し、重要度は0.4ポイント減少した。

満足度の順位は6位となり、重要度の順位は12位となった。

満足の理由として、

「中学でのスクールカウンセリングは、大変お世話になっております。何でも相談に乗っていただき感謝しています」といった意見があった。

不満の理由として、

「耶麻郡の小中学校の学力向上が必要」といった意見があった。

このほか、「小中学校の児童数が減少しているので、早めに統合することが重要と思われる。統合の際、一番大切にしたいことは現在子供がいる保護者の意見である。」との提言もあった。

(5) 乳幼児を育てやすい環境の整備について

前年度との比較では、満足度は2.7ポイント減少し、重要度はポイント1.1増加した。

満足度の順位は20位となり、重要度の順位は2位となった。

不満の理由として、

「乳幼児等の医療機関が不備であると思う。」「乳幼児を育てやすい市にしてほしい。保育園の不足、待機児童の問題をもう少し考えてほしいです。」

といった意見があった。

(6) 青少年の健全育成について

前年度との比較では、満足度は0.7ポイント増加し、重要度も0.8ポイント増加した。

満足度の順位は18位となり、重要度の順位は11位となった。

満足度でわからないを選んだ割合が41.8%と高かった。

大綱2 魅力ある産業が有機的に結びつくまちづくり ～産業づくり～

No.	施策の方針	施策項目	
1	地域の特色を生かした活力ある農林業の振興	(1) 担い手の育成・確保	(6) 農村環境・農業基盤の整備・保全
		(2) 農地の有効利用の促進	(7) 畜産業の振興
		(3) 農作物生産への支援	(8) 林道の整備
		(4) 農林産物の販路拡大	(9) 林業の振興
		(5) 環境にやさしい農業の推進	(10) グリーン・ツーリズムの推進
2	地域の個性を生かした商工業の振興	(1) 商業の振興	(5) 新しい産業の振興
		(2) 地場産業の振興	(6) 企業誘致の促進
		(3) ものづくりの振興	(7) 就業機会の確保と雇用創出の推進
		(4) 中小企業への支援	
3	もてなす心が温かい喜多方流観光の推進	(1) 温かい心くばりによる「おもてなし」の推進	(5) 観光資源のネットワーク化と広域連携の促進
		(2) 着地型観光の推進	(6) 情報発信の強化
		(3) まちづくり団体との連携と推進体制の強化	(7) 風評被害の払拭
		(4) 地域特性を活かしたイベント等の開催	

1 成果指標

指標名	初期調査時 18年度	25年度 実績	26年度 実績	27年度 実績	28年度 目標値	指標の説明
①認定農業者数 [累計]	303人	449人	499人	530人	580人	農業の担い手の確保を示す人数
②農用地の集積率 [累計]	39.6%	52.5%	55.2%	56.2%	70.0%	効率的かつ安定的な農業経営への集積目標
③園芸作物施設化率 [累計]	—	17.1%	18.4%	20.7%	30.0%	グリーンアスパラガスの生産における施設栽培面積の割合(JA会津いいで調べ)
④エコファーマー数 [累計]	—	2,161人	1,916人	1,770人	3,000人	福島県から「持続性の高い農業生産方式導入計画」の認定を受けた者(エコファーマー)の人数
⑤多面的機能支払活動組織数[累計]	—	73組織	85組織	91組織	65組織	農業・農村の有する多面的機能(国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成等)の保管理活動に取り組む組織数
⑥民有林間伐面積 [単年]	—	51ha	56ha	(推計値)27ha	274ha	民有林における間伐実施面積
⑦グリーン・ツーリズム交流人口[単年]	7,900人	4,493人	6,211人	5,411人	24,000人	グリーン・ツーリズム関連イベント等の交流人口
⑧有効求人倍率 [単年]	0.71倍	0.82倍	1.18倍	1.14倍	1.00倍以上	会津若松公共職業安定所喜多方出張所に申し込まれている求職者数に対する求人数の割合
⑨地元就職率[単年]	100%	99.6%	100.0%	100.0%	100%	管内新規高卒者で管内就職希望者数のうち、管内就職内定者数の割合
⑩観光客入込数 [単年]	172万人	184万人	169万人	182万人	220万人	本市を訪れた年間の観光客数

⑪宿泊人数[単年]	140,000 人	69,000 人	68,000 人	69,000 人	180,000 人	市内の旅館、ホテル等の年間の宿泊人数 ※目標値及び平成 23 年度実績までは推計値。平成 24 年度以降は実績。
-----------	-----------	----------	----------	-----------------	-----------	---

【成果指標からみた実績】

- ①「認定農業者数」は、経営所得安定対策における収入減少緩和対策（ナラシ対策）のメリット措置を受けるため、増加した。
- ②「農用地の集積率」は、農業行政の制度改正により、米に対する助成対象が認定農業者に限られたことから、認定農業者の数が飛躍的に増え、集積率が増加した。
- ③「園芸作物施設化率」は、補助事業の活用により、施設化が促進され増加となった。
- ④「エコファーマー数」は、新規認定や、期間満了者の更新が減少したことや、更新申請時に行う対象作物の品種や栽培方法などのカウント方法に変更があったことにより減少した。
- ⑤「多面的機能支払活動組織数（旧農地・水保全管理活動組織数）」は、多面的機能の維持・発揮を図るために各地域へ共同活動支援を行うことにより、地域資源の適切な保全管理が促進され、既存組織周辺の地域においても共同活動への意識が高まり、事業に参加する組織数が増加した。

【目標値達成】

- ⑥「民有林間伐面積」は、間伐の助成を受ける条件である「森林経営計画」の策定が進まなかったため、減少した。※H27 年度実績については暫定値であり、確定は H29 に県の公表による。
- ⑦「グリーン・ツーリズム交流人口」は、H26 年度はボート大会があり、農泊施設への宿泊者が増加したが、H27 年度は大会が開催されなかったため減少に転じた。
- ⑧「有効求人倍率」は、H26 年度と比較しほぼ横ばいで推移している。【目標値達成】
- ⑨「地元就職率」は、H26 年度に引き続き 100%で推移している。【目標値達成】
- ⑩「観光客入込数」、⑪「宿泊人数」は、ふくしまデスティネーションキャンペーン及びしだれ桜効果により、観光客入込数及び宿泊人数ともに増加となった。

2 市民満足度・重要度調査結果

項 目	満足度			重要度		
	19 年度	27 年度	28 年度	19 年度	27 年度	28 年度
(1) 農林業の振興について (1 の①～⑥)	43.5	48.7	44.9	76.4	82.1	84.9
(2) 商工業の振興について (1 の⑧～⑨)	42.4	44.8	46.5	73.6	82.6	82.8
(3) 市内における就業の機会や企業誘致について (1 の⑧～⑨)	29.2	26.5	27.3	84.2	89.7	90.4
(4) 観光の振興について (1 の⑦・⑩～⑪)	55.3	58.6	58.7	76.7	83.4	83.1
平 均	42.6	44.6	44.3	77.7	84.4	85.3

【市民満足度・重要度調査結果】

(1) 農林業の振興について

前年度との比較では、満足度は 3.8 ポイント減少し、重要度は 2.7 ポイント増加した。

満足度の順位は 22 位となり、重要度の順位は 13 位となった。

満足度でわからないを選んだ割合が 42.9%と高かった。

重要とする理由として、

「地場基幹産業である農業、林業従事者が意欲をもって参入できる環境づくりへの改善が重要である」と考える」といった意見があった。

また、「農林業は市が取り組むべき重要な課題である。とても大切なので持続しながら充実してほしい。」との提言もあった。

不満の理由として、

「集落営農の法人化などが進まず、意識改革に遅れを感じます。」「農業をしている人たちへの支援をもう少し何とかないと良いのではないか。」「農林業については後継者支援等をもっと強くし、農林業を立ち直らせてほしい。」と言った意見があった。

(2) 商工業の振興について

前年度との比較では、満足度は1.7ポイント増加し、重要度も0.2ポイント増加した。

満足度の順位は21位となり、重要度の順位は16位となった。

満足度でわからないを選んだ割合が40.2%と高かった。

不満の理由として、

「農林商工、観光のPR不足に感じられる」、「若者が集まるようなお店（ショッピングモール等）を作っていただきたい。いろいろなイベントをやっていますが、年々お店が減っているのではないか。」といった意見があった。

また、満足度でわからないを選んだ割合が高い理由として、「商工業の振興について、広報や市のHPなどで、取り組み内容を知ることができますが、その達成状況や実際に関わっている人たちの感想や意見を知ることができないため、満足度については答えられない」との意見があった。

(3) 市内における就業の機会や企業誘致について

前年度との比較では、満足度は0.8ポイント増加し、重要度も0.7ポイント増加した。

満足度の順位は最下位の26位となり、重要度の順位は4位となった。

不満である理由として、

「若者が定着するような雇用の確保がまだまだである。」「企業誘致がなかなか進んでいないと思われる。」などの意見があった。

重要とする理由として、

「若者の都会への流出を防ぐために、大規模な雇用が可能な工場等の企業誘致にもっと力を入れるべき。」「市の最大の課題は就業の機会や企業誘致である。この課題の解消が、今後の市の存続に係るくらいの問題であると思う。」「若者が定着して仕事ができる企業や産業が必要です。」「もっと雇用の場を増やすための企業誘致を積極的に進め、若者が働き、地元に残る体制が重要である。」などの意見があった。

(4) 観光の振興について

前年度との比較では、満足度は0.1ポイント増加し、重要度は0.3ポイント減少した。

満足度の順位は5位となり、重要度の順位は15位となった。

満足の理由として、

「観光アピールは成功していると思います。」「観光面でたくさんのイベントが計画され、素晴らしいと思います。更に充実していくよう願っています。」「喜多方市の観光アピールポイントは上手にPRできていると思う。」との意見があった一方、

「観光の振興についても一過性のものでなく、様々なイベントとの組み合わせにより滞在型の観光を考えてみてはどうか?」、「観光に関して喜多方には素敵どころがたくさんあるので、もっとSNSを通じて国内外にアピールしても良いと思います。」との意見があった。

大綱3 みんなの知恵と協働で創るまちづくり ～地域社会づくり～

No.	施策の方針	施策項目	
1	住民と行政の協働の推進	(1) 地域コミュニティ活動の促進	(2) 市民活動の促進
2	男女共同参画の推進	(1) 男女共同参画社会の推進	
3	地域間交流の推進	(1) 地域間交流の推進	(3) 海外協力活動の支援
		(2) 国際交流の推進	
4	自然・歴史・文化に誇りがもてる地域資源の活用	(1) 地域に残る自然や歴史文化等の保全と活用	(2) 伝統文化・歴史の継承と旧市町村史の活用

1 成果指標

指標名	初期調査時 18年度	25年度 実績	26年度 実績	27年度 実績	28年度 目標値	指標の説明
①一行政区一運動実施行政区数[累計]	105 区	190 区	199 区	208 区	195 区	運動に取り組んだ行政区の数 (全行政区数 272)
②NPOやボランティアとの協働事業数[単年]	—	16 件	19 件	21 件	25 件	NPOやボランティアと連携 (支援や協力) して取り組んだ事業数
③喜多方市市民活動支援センター運営団体の会員数[累計]	団体会員 4 団体	団体会員 7 団体	団体会員 6 団体	団体会員 5 団体	団体会員 24 団体	喜多方市市民活動支援センター運営団体(喜多方市市民活動サポートネットワーク)の会員数
	個人会員 39 人	個人会員 56 人	個人会員 46 人	個人会員 40 人	個人会員 160 人	
④NPO法人組織数[累計]	9 団体	21 団体	21 団体	23 団体	20 団体	本市のNPO法人の組織数
⑤審議会等における女性委員の割合[単年]	22.7%	31.5%	30.6%	30.2%	40.0%	本市の審議会等の委員数に占める女性委員の割合
⑥地域間交流活動参加者数[単年]	395 人	169 人	407 人	384 人	700 人	各種地域間交流イベントへの年間の参加者数
⑦国際交流活動参加者数[単年]	135 人	185 人	190 人	205 人	250 人	各種国際交流事業への年間の参加者数
⑧文化財活用事業の参加者数[単年]	217 人	2,116 人	2,645 人	2,321 人	2,000 人	文化財を活用した各種事業への年間の参加者数

【成果指標からみた実績】

①「一行政区一運動実施行政区数」は、行政区長会で事業推進を図ったことにより増加となった。

【目標値達成】

②「NPOやボランティアとの協働事業数」は、「平和へのつどい・喜多方」、「ボートインストラクター研修会」が追加となった。

③「喜多方市市民活動支援センター運営団体の会員数」は、団体会員数は1団体が資格喪失となった。個人会員の数は、2名が加入、5名が資格喪失、2名が退会し、1名が正会員から賛助会員への変更となった。

④「NPO法人組織数」は、「NPO 法人日中線しだれ桜プロジェクト」及び「特定非営利法人飯豊AGC」が新規で認証された。【目標値達成】

⑤「審議会等における女性委員の割合」は、女性委員から男性委員に変更になった審議会等が増えたため、減少となった。

⑥「地域間交流活動参加者数」は、H27 年度は友好都市消費者モニターツアーが実施されなかったことにより減少した。

⑦「国際交流活動参加者数」は、姉妹都市への中・高生の短期派遣や交流会、外国料理教室、外国語講座等の事業を実施したことにより増加となった。

- ⑧「文化財活用事業の参加者数」は、自由民権運動関連事業の終了により参加者が減り、減少となった。【目標値達成】

2 市民満足度・重要度調査結果

項 目	満足度			重要度		
	19 年度	27 年度	28 年度	19 年度	27 年度	28 年度
(1)住民と行政との協働によるまちづくりについて (1の①～④)	48.9	52.0	55.4	73.7	79.2	80.1
(2)男女共同参画の推進について (1の⑤)	48.4	48.8	52.7	63.4	68.5	73.1
(3)国際交流・地域間交流の推進について (1の⑥～⑦)	53.2	50.9	54.0	59.1	66.6	67.0
(4)蔵等の地域資源の保全や利活用について (1の⑧)	50.9	54.1	55.8	66.6	75.3	77.0
平 均	50.4	51.5	54.5	65.7	72.4	74.3

【市民満足度・重要度調査結果】

(1) 住民と行政との協働によるまちづくりについて

前年度との比較では、満足度は3.4ポイント増加し、重要度も0.9ポイント増加した。

満足度の順位は11位となり、重要度の順位は19位となった。

満足度でわからないを選んだ割合が37.5%と高かった。

(2) 男女共同参画の推進について

前年度との比較では、満足度は3.9ポイント増加し、重要度も4.6ポイント増加した。

満足度の順位は15位となり、重要度の順位は25位となった。

満足度でわからないを選んだ割合が48.4%と最も高かった。

要望として、

「男女共同参画の推進について、女性団体の活動は活発に行われているようですが、市の行政関する会議などには女性の姿は非常に少ないように思います。いろいろな立場の女性の意見も反映できるように参加を求めてはどうでしょうか。」との意見があったほか、

「男女共同参画の具体的な取組みがわからず答えられない。」といった意見が複数あった。

(3) 国際交流・地域間交流の推進について

前年度との比較では、満足度は3.1ポイント増加し、重要度は0.4ポイント増加した。

満足度の順位は13位となり、重要度の順位は最下位の26位となった。

満足度でわからないを選んだ割合が48.1%と高かった。

重要と思わない理由として、

「目に見える交流、市民が参加できる交流があまり感じられない。」「国際交流、地域交流は一部の人のためになっていると思う。」「国際交流、地域間交流ということで具体的に何をしているかわからない。」といった意見があった。

(4) 蔵等の地域資源の保全や利活用について

前年度との比較では、満足度は1.7ポイント増加し、重要度も1.7ポイント増加した。

満足度の順位は8位となり、重要度の順位は21位となった。

満足とする理由として、

「素晴らしい文化施設等をぜひ次の世代に継承してほしいと思います。」「蔵のまち喜多方がいつまでも続くように、行政、市民が一体となって守っていかなければならないと思う。」といった意見もあった。

重要でないとする理由として、

「他の地方の蔵と比べて見るべき蔵が少ない。」「蔵のまちというわりに PR が弱い。」「指定文化財に対する補助も大事であるが、喜多方市の文化財を広く周知させる方法を考えてみてはどうか。」といった意見があった。

大綱4 健康と思いやりで創る安全で安心なまちづくり ～くらしづくり～

No.	施策の方針	施策項目	
1	安心で健康に暮らせる保健・医療体制の推進	(1) 健康づくりの推進	(3) 地域医療体制の充実
		(2) 予防対策の推進	(4) 国民健康保険制度等の適正な運営
2	地域で育む福祉体制の推進	(1) 高齢者への生活支援	(3) 保健・福祉施設の整備
		(2) 障がい者への生活支援	(4) 社会保障等の推進
3	安全・安心の防犯・防災体制・交通安全対策等の推進	(1) 消防・防災体制の充実	(5) 交通安全の推進
		(2) 防火性や耐震性等の向上	(6) 防犯体制の整備
		(3) 避難体制の確立	(7) 地すべり等危険箇所の対策
		(4) 救急救助体制の充実強化	

1 成果指標

指標名	初期調査時 18年度	25年度 実績	26年度 実績	27年度 実績	28年度 目標値	指標の説明
①特定健診受診率 [単年]	—	35.9%	37.3%	(推計値) 38.0%	65%	特定健診を受けた人の割合 (各年度の法定報告「国保特定健康診査・特定保健指導国庫負担金事業実績報告値」)
②胃がん検診受診率 [単年]	—	14.8%	14.4%	(推計値) 13.7%	50%	胃がん検診を受けた人の割合 平成 23 年度から内視鏡検査を含む(40 歳以上の受診率)
③大腸がん検診受診率[単年]	—	21.0%	20.6%	(推計値) 22.1%	50%	大腸がん検診を受けた人の割合(地域保健報告)平成 23 年度から無料クーポン受診者を含む(40 歳以上の受診率)
④いきいき高齢者数 [累計]	13,891 人	13,024 人	13,167 人	13,194 人	15,500 人	要介護の認定を受けていない 高齢者の人数 (いきいき高齢者の割合)
	—	81.5%	81.1%	80.2%	88.9%	
⑤太極拳愛好者数 [累計]	1,100 人	617 人	542 人	611 人	2,000 人	市内の太極拳愛好者数
⑥太極拳ゆったり体操愛好者数[累計]	—	1,122 人	833 人	718 人	1,500 人	市内の太極拳ゆったり体操愛好者数
⑦就労継続支援利用者数[累計]	—	142 人	148 人	150 人	170 人	障がい者で、知識や能力の向上のためのサービスを利用し、生産活動を通して社会参加をしている人数
⑧火災発生件数 [単年]	36 件	21 件	19 件	16 件	18 件以下	広域消防予防課による市内の年間火災発生件数
⑨交通事故による死傷者数[単年]	324 人	242 人	155 人	103 人	220 人以下	福島県警察本部交通事故発生状況による市内の年間の交通事故による死傷者数
⑩刑法犯発生件数 [単年]	491 件	275 件	232 件	258 件	200 件以下	喜多方警察署生活安全課による市内の年間刑法犯発生件数

【成果指標からみた実績】

- ①「特定健診受診率」は、受診率向上対策として、未受診者を対象に電話やカラー版のはがきにより受診勧奨を行っていること、また新 40 歳の方を対象とした自己負担の無料化等により受診率が向上した。※各年度の法定報告期限が実施年度の翌年 11 月 1 日となっているため、H27 実績については、推計値となる。(H28 年 11 月確定予定)

- ②「胃がん検診受診率」は、40 歳以上の受診者全体でみると、0.7 ポイントの減少であるが、積極的な受診勧奨を行った 40～69 歳の受診者数はわずかに増えている。H28 新規の胃がんリスク検査の導入を機会に、50 歳代の受診者増加を図っていききたい。※H27 実績は、H27 国勢調査結果をうけた対象者数に修正予定のため推計値とする。(H28 年 10 月確定予定)
- ③「大腸がん検診受診率」は、新 40 歳無料受診勧奨の実施や無料クーポン該当の 41 歳へ電話や、はがきによる受診勧奨の実施により、H26 年度より 300 人増加となったことにより、受診率が向上した。※H27 実績は、H27 国勢調査結果をうけた対象者数に修正予定のため推計値とする。(H28 年 10 月確定予定)
- ④「いきいき高齢者数」は、若干増加した。
- ⑤「太極拳愛好者数」は、市内の太極拳教室への受講者が増えたことにより増加した。
- ⑥「太極拳ゆったり体操愛好者数」は、介護予防教室で行われているゆったり体操の普及について、H27 年度より“市直営教室”と“各地区での自主活動”へ変更となり、従来普及活動として推進していた“複合教室等”での愛好者数をカウントしなくなったため、減少となった。
- ⑦「就労継続支援利用者数」は、微増となった。
- ⑧「火災発生件数」は、予防消防活動により、地域住民の防火意識の高揚が図られ火災発生数が減少した。【目標値達成】
- ⑨「交通事故による死傷者数」は、交通安全啓発活動を推進したことにより、大幅に減少した。【目標値達成】
- ⑩「刑法犯発生件数」は、窃盗犯は減少傾向にあるものの、粗暴犯が増えたことにより、増加に転じた。

2 市民満足度・重要度調査結果

項 目	満足度			重要度		
	19 年度	27 年度	28 年度	19 年度	27 年度	28 年度
(1) 病院などの地域医療体制の充実について (1 の①～③)	38.2	42.2	41.0	93.3	91.4	93.9
(2) 健康づくりや病気の予防対策の推進について (1 の④～⑥)	55.6	56.0	56.8	86.4	84.9	87.7
(3) 障がい者やお年寄りなどのための福祉サービスについて (1 の⑦)	49.6	51.4	53.2	87.5	88.7	89.7
(4) 保健・福祉施設の整備について	51.8	52.1	52.6	84.3	88.0	89.0
(5) 自然災害や火災などの防災対策について (1 の⑧～⑨)	55.1	57.0	55.7	87.7	89.3	90.4
(6) 犯罪や風紀などの防犯対策について (1 の⑩)	51.4	53.7	55.5	86.9	87.4	89.3
平 均	50.3	52.1	52.5	87.7	88.3	90.0

【市民満足度・重要度調査結果】

(1) 病院などの地域医療体制の充実について

前年度との比較では、満足度は 1.2 ポイント減少し、重要度は 2.5 ポイント増加した。

満足度の順位は 24 位となり、重要度の順位は 1 位となった。(前年度と同順位)

不満の理由として、

「総合医療施設がなく不満である」、「何かあったときに必ず会津若松市（大きな病院）まで行かなくてはならない」、「産科・小児科病院が足りない。緊急に対処すべきと思う」といった意見が多数あった。

(2) 健康づくりや病気の予防対策の推進について

前年度との比較では、満足度は 0.8 ポイント増加し、重要度も 2.8 ポイント増加した。

満足度の順位は 7 位となり、重要度の順位は 9 位となった。

満足とする理由として

「健康診断（40 歳）の助成は素晴らしいです。」「成人病検診等では丁寧な対応に大変感謝しております。」といった意見があった。

提言・要望として

「市民は成人病検診等に関心のない割合が多いようです。該当者は検診を受けるよう手だてが必要です。」「健康診断などの受診率を上げ、無料のクーポン券を様々な検診に使うべきだと思う。」「女性のがん検診は 2 年に 1 度でなく毎年行ってほしい。」との意見があった。

(3) 障がい者やお年寄りなどのための福祉サービスについて

前年度との比較では、満足度は 1.8 ポイント増加し、重要度も 1.0 ポイント増加した。

満足度の順位は 14 位となり、重要度の順位は 5 位となった。

要望・提言として

「お年寄りの福祉サービスをもっと増やしてもらいたい。」「高齢者の生活支援、年金額で入れる高齢者施設の充実をすべきである。」「高齢者が安全で安心して快適に暮らせるようなまちにするためにも、バリアフリー化に取り組んでいくべき。車いすが入れる店や、トイレ、見学施設など。市内の事業者が積極的に取り組める仕組みづくりが必要と思う。」

といった意見があった。

(4) 保健・福祉施設の整備について

前年度との比較では、満足度は 0.5 ポイント増加し、重要度も 1.0 ポイント増加した。

満足度の順位は 16 位となり、重要度の順位は 7 位となった。

要望として

「高齢者に対して、太極拳だけでなく、気軽に運動が出来る施設があるとよいと思います」といった意見があった。

(5) 自然災害や火災などの防災対策について

前年度との比較では、満足度は 1.3 ポイント減少し、重要度は 1.1 ポイント増加した。

満足度の順位は 9 位となり、重要度の順位は 3 位となった。

満足としない理由として

「大災害が起きたときの避難場所が遠いので、老人しかいない昼間に災害が起きたらどうしようか、不安です。」「災害時にどういう対策がされているのか、身近でないので不安に思う。」といった意見があった。

重要とする理由として、

「放火が増えているのはどうしてか。対策も続けていくことが重要だと思っています。」、

「自然災害に万全を期していく必要があると思う。中山間地域では、土砂災害には特に注意し、災害を最小限に食い止めていく必要があると思われる。ゲリラ豪雨にも耐えられる施設整備を今こそ実行すべきと思う。」といった意見があった。

(6) 犯罪や風紀などの防犯対策について

前年度との比較では、満足度は1.8ポイント増加し、重要度も1.9ポイント増加した。

満足度の順位は10位となり、重要度の順位は6位となった。

不満の理由として、

「犯罪や事件など、いつ起こるかわからない危険に対しての対策ができているのか不安な部分もある（女性一人だと不安）」といった意見があった。

大綱5 自然と共生する美しく快適なまちづくり ～ふるさとづくり～

No.	施策の方針	施策項目	
1	快適な生活環境の形成	(1) 道路の整備	(8) 下水道、農業集落排水の整備
		(2) 除雪体制の整備	(9) 浄化槽設置の促進
		(3) 河川の整備	(10) 公営住宅の整備
		(4) 水路等の整備	(11) 国土調査事業の推進
		(5) 公園の整備	(12) 公共交通機関の充実
		(6) 駅周辺の整備	(13) 地域情報化の推進
		(7) 水道施設の整備	
2	人と自然に配慮した環境の形成	(1) 良好な景観の保全と形成	(3) 環境の保全
		(2) 清流対策の推進	
3	地球環境を意識した循環型社会の形成	(1) 廃棄物減量化の促進	(2) 新エネルギーの導入

1 成果指標

指標名	初期調査時 18年度	25年度 実績	26年度 実績	27年度 実績	28年度 目標値	指標の説明
①市道の改良率 [累計]	75.9%	79.4%	79.4%	79.5%	85.9%	市道の総延長に占める改良された市道の割合
②市道の舗装率 [累計]	70.3%	74.3%	74.9%	75.6%	80.3%	市道の総延長に占める舗装された市道の割合
③街路整備率 [累計]	64.9%	77.0%	77.0%	77.0%	70.0%	計画に対する都市計画道路の改良延長割合
④一人当たりの都市公園面積[累計]	6.81 m ² /人	7.61 m ² /人	7.30 m ² /人	7.30 m ² /人	8.10 m ² /人	都市計画区域内人口1人当たりの都市公園の面積
⑤水道普及率 [累計]	—	86.5%	87.5%	87.7%	86.2%	水道の普及率
⑥下水道等普及率 [累計]	55.6% (H19年度)	61.6%	61.9%	61.5%	81.0%	総人口に占める公共下水道、農業集落排水、浄化槽等利用可能人数の割合
⑦水洗化率[累計]	77.4% (H19年度)	86.1%	86.6%	86.7%	89.0%	下水道が使える区域の人口のうち接続した人口の割合
⑧公共交通カバー率[累計]	—	99.8%	99.8%	99.8%	99.5%	公共交通を利用可能な人口割合
⑨公共交通利用者数[単年]	—	297人/日	266人/日	282人/日	595人/日	1日の公共交通利用者数
⑩水質の浄化度 市内主要河川の BODの数値[単年] ※県の調査データ	1.6mg/ℓ	1.2mg/ℓ	1.4mg/ℓ	意見書作成時 未公表	1.0mg/ℓ	測定位置： 田付川「下川原橋」
	1.6mg/ℓ	1.4mg/ℓ	1.6mg/ℓ	意見書作成時 未公表	1.0mg/ℓ	測定位置： 濁川「濁川橋」
⑪花いっぱいコンクール参加件数[単年]	52件	39件	42件	35件	130件	花いっぱいコンクールに応募された年間の件数
⑫1人1日当たりの ごみ排出量[単年]	—	970g	961g	966g	850g	市民1人当たりのごみの排出量
⑬リサイクル率 [単年]	14.8%	15.8%	14.9%	15.0%	27.0%	一般家庭等から収集しているごみに占める資源物の割合
⑭住宅用太陽光発電システムの導入量[累計]	—	1,986kW	2,252kW	2,495kW	2,133kW	市内における住宅用太陽光発電システム導入量

【成果指標からみた実績】

- ①「市道の改良率」②「市道の舗装率」③「街路整備率」④「一人当たりの都市公園面積」は、前年度とほぼ同率、同水準となった。【目標値達成（街路整備率）】
- ⑤「水道普及率」は、水道加入促進活動の実施により微増となった。【目標値達成】
- ⑥「下水道等普及率」は、総人口に占める浄化槽等利用人数の割合が下がったことにより減少に転じた。
- ⑦「水洗化率」は、増加傾向を維持した。
- ⑧「公共交通カバー率」は、前年度と同率である。【目標値達成】
- ⑨「公共交通利用者数」は、デマンドバスの利用者の増（16 人）、路線バス（塩川線、熊倉線、会津坂下線）利用者の減（△1 人）、委託バス（荻野線）利用者の減（△1 名）、その他路線（裏磐梯線）利用者の増（2 名）により、増加となった。
- ⑩「水質の浄化度」は、意見書作成時点で未公表である。（福島県の調査となる。）
- ⑪「花いっぱいコンクール参加件数」は、春先からの天候不順の影響により参加件数が減少した。
- ⑫「1 人 1 日当たりのごみ排出量」は、前年度とほぼ同率である。
- ⑬「リサイクル率」は、昨年度と比較し、ほぼ横ばいである。
- ⑭「住宅用太陽光発電システムの導入量」は、再生可能エネルギー固定価格買取制度や県・市による補助金制度等の活用により、積極的な導入が図られ順調に増加している。【目標値達成】

2 市民満足度・重要度調査結果

項 目	満足度			重要度		
	19 年度	27 年度	28 年度	19 年度	27 年度	28 年度
(1)道路の整備について（広さや舗装） （1 の①～③）	46.3	43.7	48.1	82.0	85.1	84.8
(2)ゴミやし尿、生活排水などの衛生処理の 整備について（1 の⑤～⑦・⑫）	51.9	54.1	59.0	88.6	88.3	88.4
(3)公園や広場の整備について （1 の④）	46.6	46.8	44.9	73.2	75.7	78.5
(4)公共交通機関の利用環境の整備について （1 の⑧～⑨）	43.5	36.4	37.2	77.9	80.3	81.7
(5)市内を流れる水路の清流化や環境の保全 について（1 の⑩）	49.8	53.4	54.7	82.0	79.7	81.3
(6)資源ゴミなどリサイクル状況について （1 の⑬）	57.0	64.6	63.5	87.2	87.1	87.0
平 均	49.2	49.8	51.2	81.8	82.7	83.6

【市民満足度・重要度調査結果】

（1）道路の整備について

前年度との比較では、満足度は 4.4 ポイント増加し、重要度は 0.3 ポイント減少した。

満足度の順位は 19 位となり、重要度の順位は 14 位となった。

不満の理由として、

「道路の停止線等消えているところが多い。」、「道路の土手の草がだいぶ伸びていてもきれいにしていないところが多く見られます。もう少し考えてください。」、「道路の凸凹を何とかしてほしい。」、「生活道路の路盤の傷み、通行が大変危険な状態。早急な補正、改修を望む。」、「舗装すべき場所の優先順位を考えるべきだと思う。」、「道路整備に時間がかかっている。」、「市道の

舗装が壊れている所が前より多くみられる。」といった意見が多数あった。

(2) ゴミやし尿、生活排水などの衛生処理の整備について

前年度との比較では、満足度は4.9ポイント増加し、重要度も0.1ポイント増加した。

満足度の順位は3位となり、重要度の順位は8位となった。

不満の理由として、

「旧市内の下水道の普及率が低い。」「資源ごみの日が月1回というのは少ないと思います。月2回にさせていただくと助かります。」といった意見があった。

提言として

「市民はごみ分別をし、少しでも堆肥化をすべきと思う。」といった意見があった。

(3) 公園や広場の整備について

前年度との比較では、満足度は1.9ポイント減少し、重要度は2.8ポイント増加した。

満足度の順位は23位となり、重要度の順位は20位となった。

不満の理由として、

「部落のブランコ、鉄棒、滑り台の管理が不十分と思われる。」「河川敷などの公園が他の市町村に比べると管理が行き届いていない（草だらけ、遊具など）作りっぱなしのように見えます。」「木や草が伸び放題になっていて、他の市町村の公園に比べ、その公園に入ろうと思えない様子です。」「公園が整備されている所とされていないところの差が大きいようである。」「市内に公園はたくさんありますが、管理もあまりされていない。遊具も古くなっていたり、壊れたりしたままで、子供達にもあまり利用されていないように思えるのですが。」といった意見があった。

(4) 公共交通機関の利用環境の整備について

前年度との比較では、満足度は0.8ポイント増加し、重要度も1.4ポイント増加した。

満足度の順位は25位となり、重要度の順位は17位となった。

不満の理由として、

「予約制のタクシーが利用しにくい。」「予約や電話をしなくてもいいように駅まで定期的にバスを運行して欲しい。予約では急用（病院等）に乗車できない。」「自動車免許を返却した場合の状況を想定すると、路線バスが廃線となっているため、日常生活への支障が心配である。」「公共機関、バスがなく不便でこの上ない不満大。」といった意見があった。

(5) 市内を流れる水路の清流化や環境の保全について

前年度との比較では、満足度は1.3ポイント増加し、重要度も1.6ポイント増加した。

満足度の順位は12位となり、重要度の順位は18位となった。

満足の理由として、

「田付川も以前に比べてかなり整備されている。」

との意見がある一方、

「努力はされているものの、道路や河川にゴミがよく散乱している。パトロールの強化やボランティア清掃などの推進が望まれる。」「何年も前から水路がストップし、側溝にヘドロやゴミがたまってしまう。」「喜多方は水の豊かなイメージを持っている。また、ラーメンのまちとして多くの観光客が訪れる。多くのお客様が歩いて観光できる街であることから、水路

を充実させ、魚が常に見れるようなまちづくりが重要と思う。」といった意見も見られた。

(6) 資源ゴミなどリサイクル状況について

前年度との比較では、満足度は 1.4 ポイント増加し、重要度も 0.9 ポイント増加した。

満足度の順位は 1 位となり、重要度の順位は 10 位となった。

満足の理由として、

「リサイクル状況や取り組みについては、先進的な対応であると考えています。これからもうぞよろしく願います。」といった意見があった。

不満の理由として、

「喜多方は分別が細かくて、かえって面倒で外から見えないように何でも入れて捨ててしまう方もいると思う。ゴミ袋も値段は高いし家計の負担になっている。」

「ゴミのリサイクル、一般家庭ごみはある程度分別されているが、施設、工場等はまだまだのような気がする。」といった意見があった。

＜大綱１＞ 豊かな心を育むまちづくり ～ひとづくり～

＜大綱２＞ 魅力ある産業が有機的に結びつくまちづくり ～産業づくり～

＜大綱３＞ みんなの知恵と協働で創るまちづくり ～地域社会づくり～

＜大綱４＞ 健康と思いやりで創る安全で安心なまちづくり ～くらしづくり～

＜大綱５＞ 自然と共生する美しく快適なまちづくり ～ふるさとづくり～